

豪州肉用牛産業における環境対策

～持続可能性の確保に向けて～

alicセミナー 2020年2月5日
独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 井田 俊二

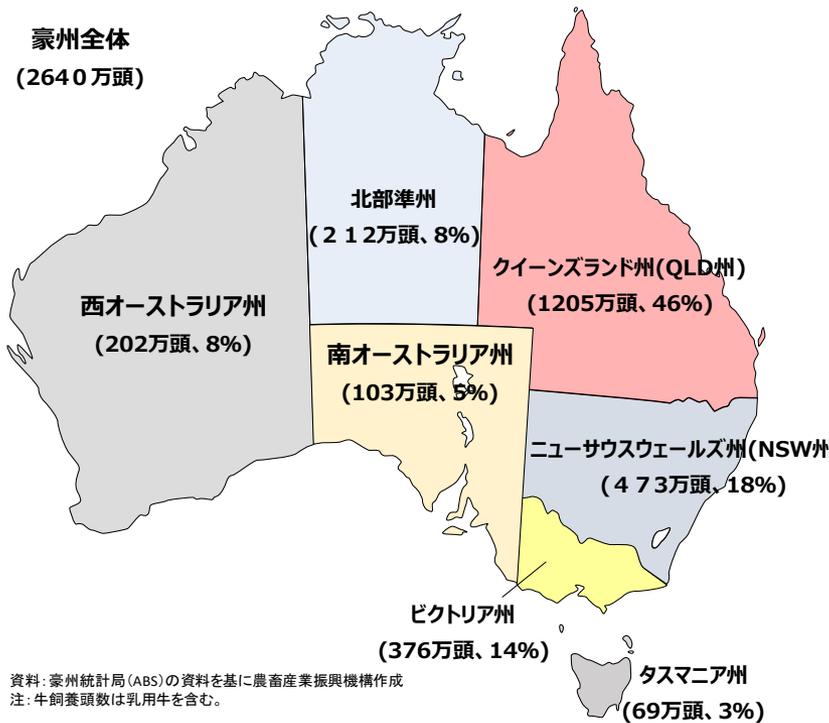
◎目次

- 1 豪州肉用牛産業の概要～環境対策に関連して～
- 2 牛肉持続可能性に関する枠組み（フレームワーク）
 - (1) 肉用牛農家でのフレームワークに即した取り組み
- 3 生産段階における取り組み
 - (1) グレージング・ベスト・マネジメント・プラクティス
 - (2) 全国肥育場認定制度（NFAS）
- 4 まとめ

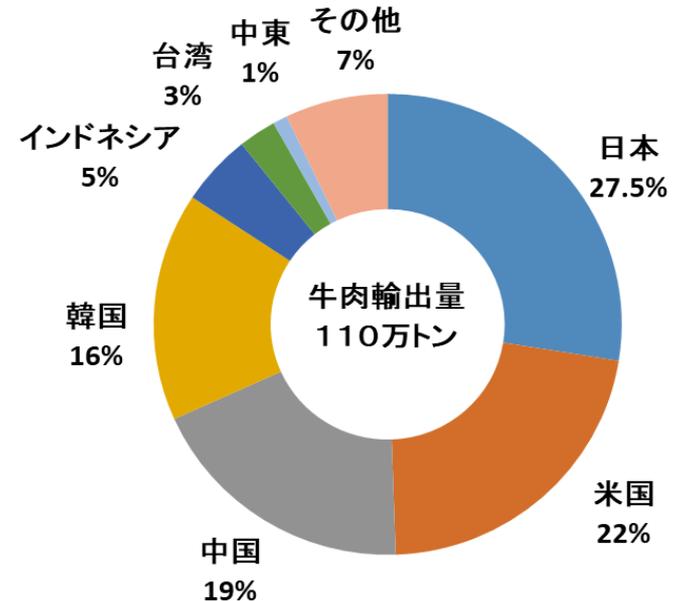
1 豪州肉用牛産業の概要 ～環境対策に関連して～

- ・牛飼養頭数は2640万頭
- ・生産量の71%が輸出向けの輸出志向型産業
- ・豪州農業生産額の18%を占める主要産業

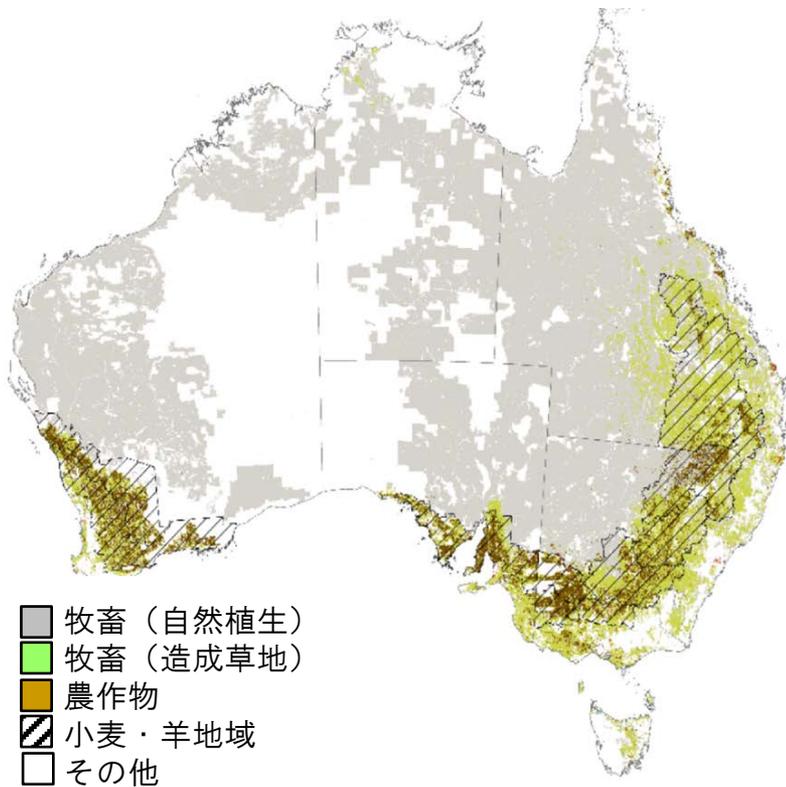
豪州牛飼養頭数



牛肉輸出量の輸出相手先別シェア



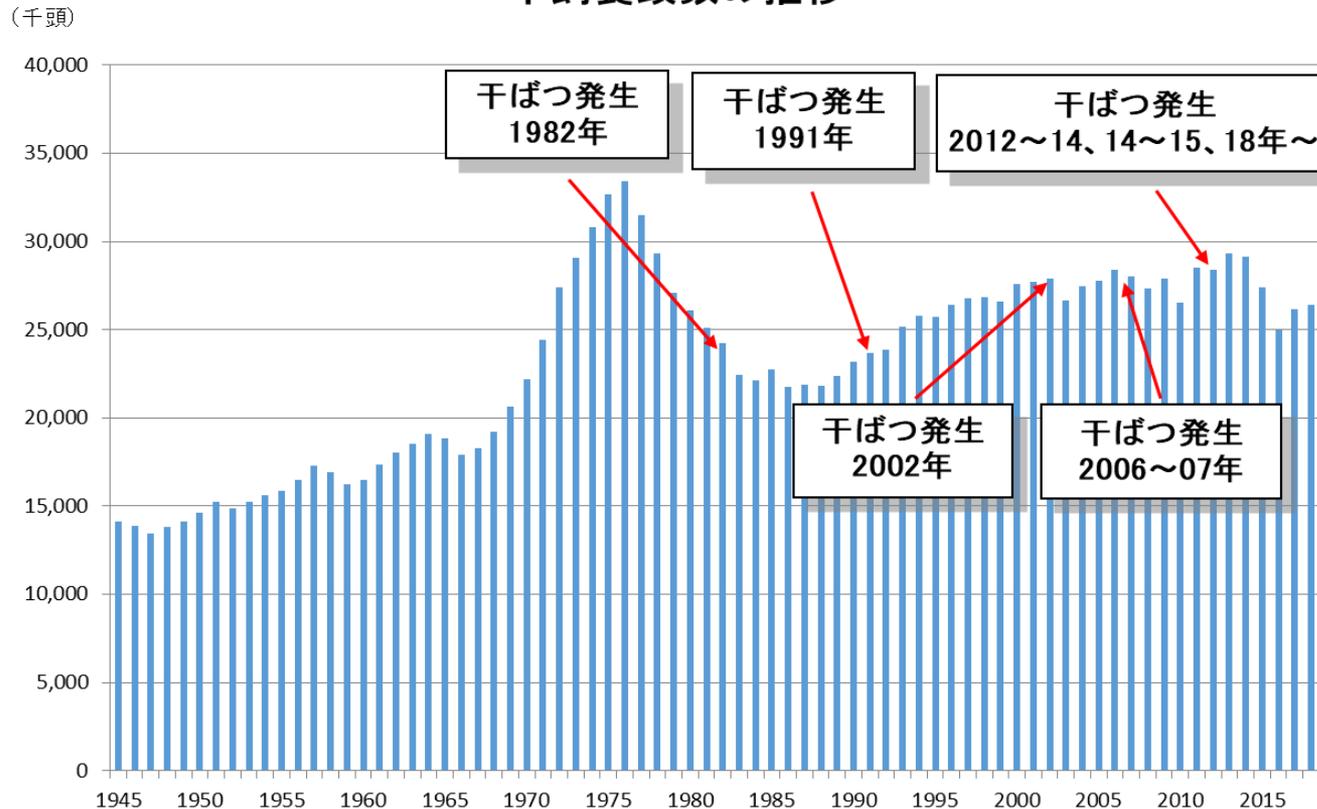
- ・ 気候は熱帯から温帯。大半が乾燥または半乾燥地帯
- ・ 国土の58%で農業生産。その9割以上の54%で牧畜
- ・ 牧畜地域の83%で自然の植生を利用
- ・ 多様な生産環境の下で肉用牛生産



資料：豪州農業省の資料を基に農畜産業振興機構作成

- ・牛飼養頭数は、増加傾向で推移
- ・政府支援の下、牧草地の拡大
- ・土壌劣化など環境問題の一因
- ・近年では、干ばつなどの災害の多発

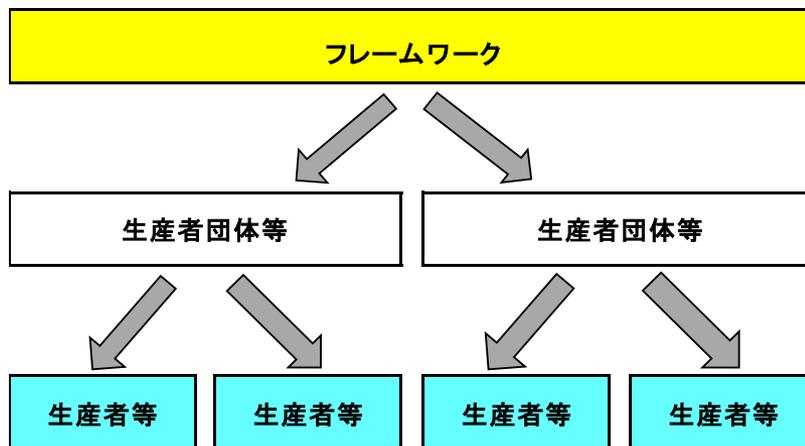
牛飼養頭数の推移



資料: 豪州統計局(ABS)の資料を基に農畜産業振興機構作成

注: 牛飼養頭数は乳用牛を含む。

2 牛肉持続可能性に関する枠組み (フレームワーク)



[設立の経緯、目的等]

- ・ 業界では、持続可能性の枠組みの必要性を認識
- ・ 2017年4月、フレームワークを発足
- ・ 業界が取り組むべきテーマおよび課題を定め、指標データを収集し報告

フレームワークのガバナンス

承認	レッド・ミート諮問委員会 (RMAC)	
指導	持続可能性運営グループ	
協議	諮問委員	技術専門委員
サポート	業界サービス会社 (MLA、AMPC、Live Corp)	
最適行動の実施	生産者、処理加工業者、フィードロット、輸送業者	

資料: 2019 Australian Beef Sustainability Annual Update

[フレームワークの取組みテーマ]

- ・ 動物福祉、経済的強じん性、環境への責務、人と地域社会
- ・ 環境への責務では、3テーマ、6課題を設定
- ・ 環境への影響の最小化を図る

フレームワークで取り組むテーマ(抜粋)

○環境への責務

テーマ	課題	指標	データ(現状)
土地管理手法 の改善 <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">3テーマ</div>	森林と草地のバランス <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">6課題</div>	・環境成果のための土地管理 面積	農場の1.35%(保全のための休閑地の割合)
			データなし(正規の土地管理を行っている面積割合)
			52%(積極的な土地管理を行っている面積割合)

資料:「Australian Beef Sustainability Annual Update」

[フレームワークの今後の計画、課題等]

- ・ 信頼性の高い指標データの収集、継続的な見直し
- ・ 指標となる、目標値の設定
- ・ 社会ニーズの変化に応じ優先課題を柔軟に見直し
- ・ 取り組みに対する消費者等の理解

肉用牛農家でのフレームワークに即した取り組み (事例調査)

- ・VIC州南西部
- ・農地644ヘクタール。肉用牛1,000頭、羊2,300頭飼養
- ・農地面積の約18%雑木林や道路、水路等の生産基盤確保

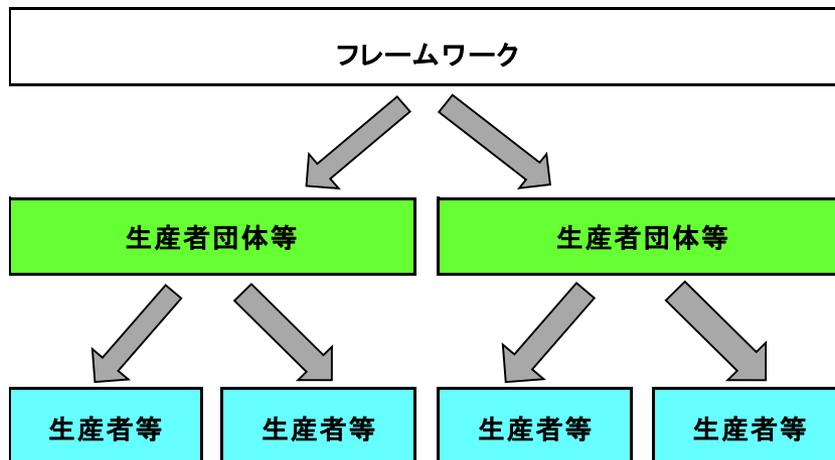


肉用牛農家でのフレームワークに即した取り組み (事例調査)

- ・水路に沿ってフェンス設置及び植林
- ・毎年土壌検査の実施
- ・毎年牧草の生育状況を予測。放牧計画
- ・無角ヘレフォードを飼養



3 生産段階における取り組み



生産段階における取り組み（その1）

～グレーディング・ベスト・マネジメント・プラクティス～

- ・ 2009年QLD州業界主体が中心に開始
- ・ 長期的に生産性、収益性、持続可能性の確保のための行動基準
- ・ 測定基準：①家畜生産②放牧地管理③人および経営④土壌健全性
- ・ 具体的指標を設定（157項目）
- ・ 農家は自主的な参加
- ・ 指標に基づき経営状況をオンラインで自己評価
- ・ さらに情報交換やワークショップなど実施
- ・ 第三者による監査を受け、認証農家

生産段階における取り組み（その1）

～グレーディング・ベスト・マネジメント・プラクティス～

「放牧地管理」

- ・ 評価対象は「農場のマッピングと土地に関する情報」など6項目
- ・ 土壌侵食、雑草、害獣被害防止等に効果

「土壌健全性」

- ・ 評価対象：土壌の物理的性状など4項目
- ・ 降雨による表土流失等に効果

グレーディング・ベスト・マネジメント・プラクティスで取り組む項目（抜粋）

・土壌の物理的性状（抜粋）

業界基準以下	4項目	業界基準	業界基準以上	目標基準	改善への段階
SH1.2 土壌の性状					
農場計画、放牧管理の際に土壌の性状を考慮していない。	土地改良や放牧計画の際に土壌侵食、圧縮による影響の可能性について考慮している。	業界基準に加え、表面の状況が悪化した土壌対策を講じ、将来のリスクに対する備えを行っている。		<input type="checkbox"/> 業界基準 <input checked="" type="checkbox"/> 業界基準以上	1 2
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			

資料：「Grazing BMP」

生産段階における取り組み（その1）

～グレーディング・ベスト・マネジメント・プラクティス～

[ベストプラクティスに即した食肉処理組合の取り組み（事例）]

- ・ NSW州北部、組合員農家約1000戸
- ・ 5年ほど前にプログラムに参加。120戸が実施
- ・ 組合独自の取り組みとしてソイルクラブプログラムを実施
- ・ このほか、地方自治体等と共同で家畜生産基盤プログラムを実施
- ・ 河川の水質汚染防止等のため、飼養管理の改善や植林等推進



生産段階における取り組み（その2）

～全国肥育場認定制度（NFAS）～

- ・ 1994年、豪州フィードロット協会が導入した品質管理システム
- ・ オズミートが管理
- ・ 品質基準①管理システム②食品安全③環境管理④家畜管理⑤品質統一性
- ・ 6要素：①環境管理②地上水③地下水④コミュニティ⑤生態系⑥環境事象報告
- ・ 設置に当たりNFAS認定。州政府または地方政府承認
- ・ オズミートが年1回、現地での監査を実施。監査結果は州政府に報告



4 まとめ

- ・ 業界が中心となって包括的な枠組みを定め、環境問題を位置づけ
- ・ 業界として環境対策の統一的な立場や方向性を明示
- ・ 生産段階では、多様な生産環境の下、環境に対応
- ・ VIC州の訪問農家では、土壌管理等により環境に配慮した経営
- ・ 他方、河川の汚染問題の事例。肉用牛農家は酪農などと比べ環境対策に関する意識低いとの声も
- ・ 地域の状況に応じ環境対策で試行錯誤を続けていることを垣間見ることができたが、長期的な視点での取り組みが必要

ご清聴ありがとうございました。
調査情報部 井田 俊二

今回の情報は「畜産の情報」2020年2月号に掲載しております。

※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「畜産の情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月2回（5日、25日）、最新の情報を配信しています。メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ（<https://www.alic.go.jp>）の「メールマガジン登録」からご登録ください。

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。